

薬だつ知識

57

令和4年7月6日(水)

57. 新型コロナワクチン

新型コロナウイルス感染症のワクチン接種では、薬剤師もさまざまな形で協力しています。集団接種会場では、注射器にワクチンの薬液を入れる薬液充填、服用している薬の確認や記入のサポートを行う予診票対応など、各地域の医師会、歯科医師会、薬剤師会が連携して業務に当たっています。また、鹿児島県薬剤師会は副反応などの相談対応、予診票の記入支援なども実施しています。

薩摩川内市での取り組みを紹介します。同市では新型コロナウイルスワクチン推進会議を定期的に開催し、行政、医師会、歯科医師会、薬剤師会、基幹病院と情報を共有し、ワクチン接種事業を進めています。

薬剤師会ではワクチンの1回目接種

新型コロナワクチン



新型コロナウイルスワクチンの集団接種会場では薬剤師が薬液充填などを担う

が始まる前、病院に勤める薬剤師と一緒にマニュアルを作成。病院や薬局の薬剤師らが通常業務終了後に集まり、研修会を数多く実施しました。慣れない業務のため、薬液充填用の実習キットを宿題として持ち帰り、直接手で触って学んでいきました。接種の初期の

頃は医師、歯科医師、保健師などが試行錯誤の中で情報を共有、意思疎通を進めていきました。

薬剤師は特に、接種者が服用している薬の確認やワクチンの品質管理、施設の衛生管理などで貢献できました。今では、あうんの呼吸で予診、充填調製、監査、接種、接種後の経過観察などを行っています。ワクチンや注射器に異物混入がないかなどを確認する監査までを薬剤師が担います。

集団接種会場での予診票対応に、地元の薬剤師が従事することで、接種者の不安が和らぐ場面も見られました。さまざまな職種がチーム一丸となって取り組んだことで、いろいろな課題を乗り越えることができました。薩摩川内市だけでなく、他の自治体でもワクチン接種の推進、接種者の不安解消に薬剤師が取り組んでいます。

新型コロナウイルスが終息し、人々がしつかり顔と顔を向き合わせ、語り合い、助け合う世の中に戻ることを願うばかりです。(鹿児島県薬剤師会薬事情報委員会・野元健一)

※第1水曜に掲載します。

多職種一丸で接種促進